

平成6年度埋蔵文化財  
発掘調査報告書



1995

新潟市教育委員会

## 例 言

1. 本書は平成6年度に実施した埋蔵文化財包蔵地（周知の遺跡）発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は新潟市教育委員会が調査主体となり、生涯学習課が所管した。
3. 調査で得た資料は、新潟市教育委員会が一括して保管している。
4. 現地調査から本書の作成に至るまで、多くの方々や機関から指導・協力を得た。

## 目 次

1	今年度の調査概要	1
2	確認調査	3
	(1) 築上山遺跡	3
	(2) 石動遺跡	4
	(3) 竹尾西遺跡	6
	(4) 大江山地区の遺跡—城山・中山・直り山A遺跡—	7

## 1 今年度の調査概要

今年度は本格調査1件、立ち会い調査9件、試験調査6件の合計16件の調査が行われた。公共事業に伴う調査が16件中14件と9割近くを占める。費用は国宝重要文化財等保存整備費を受けている。調査日数は下記のとおりである。

山木戸遺跡第2次調査は、平成3年度に行われた1次調査時の隣接地区を調査した。5月上旬から約4か月間実施された。途中事業予定地に変更があり、期間を延長した。前回性格不明遺構とされていたSX6の南側半分からカマドが確認され、住居であることがわかるなど、貴重な資料を得ることができた。

このほかに平成5年度からの場遺跡出土遺物保存処理事業を行っている。国宝重要文化財等保存整備費補助金を受け、平成9年度まで継続する予定である。

表1 管内遺跡調査一覧表

(遺跡番号) 遺跡名	届出通知月日等 調査原因	届出地番 発掘面積	調査区分 調査期間	調査結果・取扱い
112 山木戸	1993.11.5法57条の3 下水道敷設	山木戸4-9 3,200㎡	立ち会い調査 4月12日、13日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
86 下場	1994.4.19法57条の3 下水道敷設	下場本町432 500㎡	立ち会い調査 5月20日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
86 下場	1994.4.19法57条の3 下水道敷設	下場本町 400㎡	立ち会い調査 8月1日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
41 大敷	1994.7.19法57条の3 下水道敷設	赤塚地内 8,300㎡	立ち会い調査 9月7日、16日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
23 横山	(事前協議) 砂利採取	太夫浜字向山3305 8,815.24㎡	立ち会い調査 9月19日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
41 大敷	1994.7.19法57条の3 下水道敷設	赤塚地内 8,300㎡	立ち会い調査 9月20日、27日、28日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
71 北浦原B	1994.7.26法57条の3 下水道敷設	赤塚地内 8,300㎡	立ち会い調査 10月3日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
3 六地山	(事前協議) 河川改修	曾相字沢田1,262-2 500㎡	立ち会い調査 10月24日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
86 下場	1994.10.14法57条の2 都市ガス布設	下場本町 400㎡	立ち会い調査 10月26日	遺物・遺構とも確認されず 工事継続。
25 茶上山	1994.8.1法57条の3 学校グラウンド改修	新崎字茶上山5437 8,600㎡	試験調査 8月22日、23日	遺物・遺構とも確認されず 工事着手。
85 石動	(事前協議) 県道建設	本所字塔浦845 6,000㎡	試験調査 8月29日～31日	遺物(古墳・平安・中世)・遺物 包含層を確認。1995年度本 格調査。
83 竹尾西	1994.8.1法57条の2 住宅建設	竹尾4-35-5 272.53㎡	試験調査 9月13日	遺物・遺構とも確認されず 工事着手。
28 城山	(事前協議) 圃場整備	蔵岡字城山209 760,000㎡	試験調査 12月13～22日、 1月10日、11日 2月27日、28日	遺物・遺構・遺物包含層を確認。 道路・用水管建設部分を 本格調査、他は現状保存 する方向で協議中である。 詳細は本文参照。
1 中山	(事前協議) 圃場整備	蔵岡字上堤127 760,000㎡	試験調査 3月1日～10日	遺物・遺構・遺物包含層を確認。 詳細は本文参照。
14 沢り山A	(事前協議) 圃場整備	沢り山字大橋場3-2 760,000㎡	試験調査 3月13日、14日	遺物・遺構とも確認されず 工事着手。
112 山木戸	(事前協議) マンション建設	山木戸4-438-1 3,606.85㎡	本格調査 5月9日 ～8月23日	遺物(古墳・奈良・平安・中世)・ 遺構(奈良時代の住居跡、中 世の井戸6基等)が出土。



## 2 確認調査

### (1) 築上山遺跡

#### 遺跡の立地と周辺の遺跡

築上山遺跡は約2km内陸に入った新砂丘Ⅱ-2列上に立地する。阿賀野川以北で同砂丘列上にはこのほかに神谷内遺跡(4)、サン化学前(38)、向山(22)、横山(23)、上舟橋(24)等があげられる。奈良・平安時代の遺跡が多く、築上山遺跡でも平安時代の土師器と思われる破片が採集されている。また、製塩土器が出土した東港太郎代(5)、出山(32)は、遺跡が形成された当時は新砂丘Ⅱ上に立地し、その上に新砂丘Ⅲが形成されたと思われる。

#### 調査に至る経過

築上山遺跡は現在大半が澤川中学校敷地にかかる形で遺跡推定範囲と台帳に記されている。今回は同校グラウンド改修を工事原因として平成6年8月1日付けで新潟市長より文化財保護法第57条の3の規定による埋蔵文化財包蔵地にかかる事業計画の通知があった。これについて現状ではすでに砂丘が削平されて遺物が採集できないこと、また、昨年度に今回の事業予定地に隣接する部分で立会い調査をしたが遺物・遺構等は発見されなかったことを申し添え、県教育委員会(以下「県教委」と略)へ進達した。

#### 調査結果

遺跡推定範囲を中心として試掘坑を13か所設定し、重機で掘削した。ほとんどの試掘坑で地表面下から碎石や砂が厚いところで60cm以上盛られているのが観察され、砂丘基盤砂層と思われる7層上面まで削平が及んでいた。そのため砂丘頂部はほとんど平らになっている。合計104㎡調査したが、どの試掘坑からも遺構・遺物・遺物包含層は検出されず、今回の開発範囲部分において遺跡はすでに失われたものと考えられる。



図2 遺跡周辺図 (S=1/20,000)

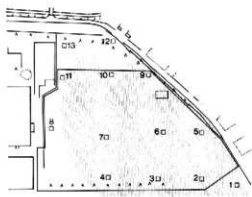


図3 試掘坑配置図 (S=1/2,000)

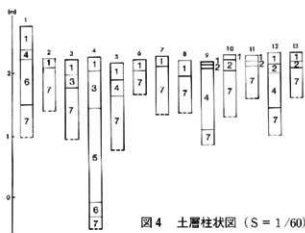


図4 土層柱状図 (S=1/60)

#### 土層注記

- 1 黄褐色砂質土
- 2 クラッシャー(砕石層)
- 3 白砂
- 4 褐色砂
- 5 明褐色シルト
- 6 暗褐色シルト
- 7 暗褐色砂

## (2) 石動遺跡

### 遺跡の立地と周辺の遺跡

石動遺跡は石山砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-2列に対比される）上の東端付近に位置する。1950年ごろの耕地整理の際に須恵器が出土したとされており、その後1985年の分布調査で中世、1989年に古墳時代の土師器が発見されている。

### 調査に至る経過

県道建設事業予定地は遺跡の東端から約30m離れており、現況は水田および宅地である。遺跡範囲外であったため事前協議を行い、文化財保護法第98条の2による通知を市教委から県教委へ行った。



図5 遺跡周辺図 (S=1/20,000)

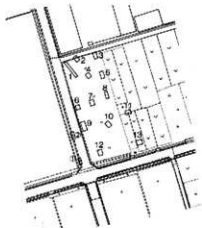


図6 試掘坑配置図 (S=1/2,000)

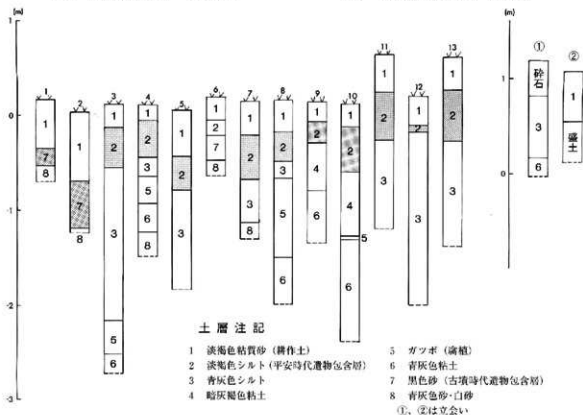


図7 土層柱状図 (S=1/40)

## 調査結果

予定地内にはほぼ均等に13か所の試掘坑を配置し、重機と人力で合計180㎡を掘削した。表土下からシルト層と粘土層や腐食層が互層になっており、70～120cmで砂丘基盤砂層を確認した。淡褐色シルト層から平安時代、7層黒褐色砂層から古墳時代の遺物を発見した。調査区北側を西南西～東北東方向に走る砂丘列上に古墳時代の遺構・遺物包含層、その上に平安時代の遺物包含層(自然堤防の一部)が堆積している。12、13TPからは遺物が出土せず、粘性の強いシルト質層が厚く堆積していることから、遺跡の端にあたると思われる。また、13TP付近で炭焼の破片を採集した。

遺物 古墳時代の上師器と平安時代の須恵器や土師器が包含層より出土した。異なる土層から出土しているため、古墳時代から平安時代に至る間に地形が大きく変化していたことがうかがえる。また、古墳時代のものは前期、平安時代のものは9世紀後半～10世紀前半頃と思われる。小破片が多かったため、詳細は今後の本調査に期待したい。

以上のことから遺跡が事業予定地まで広がっていることが確認されたため、来年度以降本格調査を実施することになった。

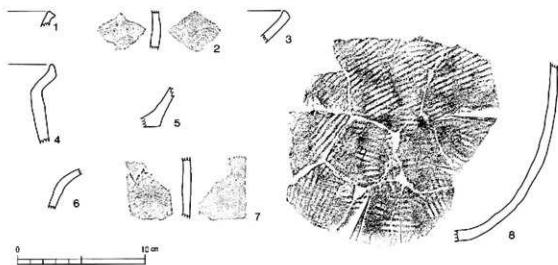


図8 石動遺跡出土遺物 (S=1/3)

表2 石動遺跡出土遺物観察表

番号	出土地点	種類	器種	色調	胎土	遺存部位	調整	備考
1	1TP 7層	土師器	釜	褐色	径2mm以下灰・赤茶粒子少量含	口縁部	内外面カキメ	
2	1TP 7層	土師器	釜	暗褐色	径1mm以下黒・茶粒子少量含	体部	内外面ハケメ	外面炭化物付着
3	1TP 8層	土師器	釜	淡褐色	微細な白色粒子微量含	口縁部		
4	1TP 1層	土師器	長胴甕	淡褐色	径1mm以下白・灰・半透明・赤・茶粒子少量含	口縁部		
5	1TP 2層	土師器	小甕	褐色	径1mm白・黒・赤・半透明粒子少量含	底部	底部糸切り無調整	
6	1TP 2層	土師器	釜	暗赤褐色	径1mm以下白・灰・半透明粒子少量含	口縁部	内外面ナデ	
7	1TP 2層	土師器	長胴甕	淡赤褐色	微細な白・黒・赤・金・半透明粒子少量含	体部	外面カキメ	
8	1TP 2層	土師器	長胴甕	淡赤褐色	径1mm以下白・黒・赤・茶・灰色粒子少量含	底部	外面平行タタキ	内外面一箇所ス付着

### (3) 竹尾西遺跡

#### 遺跡の立地と周辺の遺跡

竹尾西遺跡は阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-3列に対比される砂丘上に位置する。1985年の分布調査で平安時代の土師器と思われる遺物が採集されている。北東に竹尾遺跡があるが現在は宅地となっており確認できない。

信濃川以東の新砂丘Ⅱ-3列上には寺山遺跡<sup>83</sup>、女池稲荷遺跡<sup>83</sup>、親仁山遺跡<sup>203</sup>等が点在する。平安時代および中世にかかる遺跡が多い。

#### 調査に至る経過

土地所有者から、現況耕作地に個人住宅を建てたいと平成6年7月22日付けで文化財保護法第57条の2の届出があった。事業予定地は遺跡推定範囲にはかかっていなかったが、遺跡発見時の状況に不明部分が多く、遺跡が事業予定地まで広がる可能性を考慮し、隣接地として取り扱うこととして県教委に進達した。

#### 調査結果

試掘坑を、建物基礎の予定位置を避けて1か所設定した。現地表面から約2m掘り下げたが、1m以上砂が盛られていた。盛砂の下に青灰色砂、青灰色粘土、暗褐色粘土の順で堆積していた。特に暗褐色粘土は堆積が厚く、砂丘形成層まで掘削が達しなかった。遺構・遺物・遺物包含層が発見されなかったため遺跡範囲には含まれないと考えられる。



図9 遺跡周辺図  
(S=1/20,000)



図10 試掘坑配置図 (S=1/250)

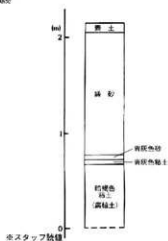


図11 土層柱状図 (S=1/40)



#### (4) 大江山地区の遺跡

##### 遺跡の立地と周辺の遺跡

大江山地区の遺跡は主に亀田砂丘（阿賀野川以東新砂丘1列に対比される）上に存在する。過去に行われた主な調査として、昭和62年に小丸山遺跡で宅地造成に伴い本格調査が行われ、少量の縄文土器と平安時代の集落が発見されている。また、1982～1987年にわたり市教委が「大江山地区の遺跡」と題する報告書を刊行しており、過去に採集された資料等を中心にまとめている。

##### 調査に至る経過

新潟農地事務所より、大江山地区の水田・畑地に圃場整備を実施したいと平成6年6月6日付けで文化財保護法第57条の3の通知があった。事業内容は田面等の区画整理、農業用排水路、農道、ビニルハウス等である。事業予定地は84haと広く、予定地には中山遺跡をはじめ、計5遺跡が含まれていた。これらのうち、工事の工程上予定地の北側にある3遺跡の調査を収束終了後に実施することとした。実際の調査期間は12月半ばから冬期間にかかり、降雪の中調査をすることになった。しかし、重機で掘るそばから雪に埋もれ、肝心の土層観察や、遺物の有無の確認が充分にできず、一時中止した。2月末から作業を再開し、3月半ばに終了した。

##### 調査結果

今年度確認調査を行った遺跡は城山、中山、直り山Aの3遺跡である。試掘坑数は3遺跡合計87か所を設定、掘削した。遺跡の範囲は遺構・遺物・遺物包含層のいずれかを確認した場合に●で示し、今回確認できた遺跡の範囲を縦線のスクリーントーンで表示した。また、土層柱状図は遺跡の南北及び東西方向に各2本ずつエレベーションを作成した。以下に各遺跡ごとの結果を記載する。

##### 城山遺跡（図14 No.1～39、48・49、54～61）

これまでの推定範囲より南北に広がっており、また、約1/3が削平されていることがわかった。削平されていたのは15～21TP周辺である。

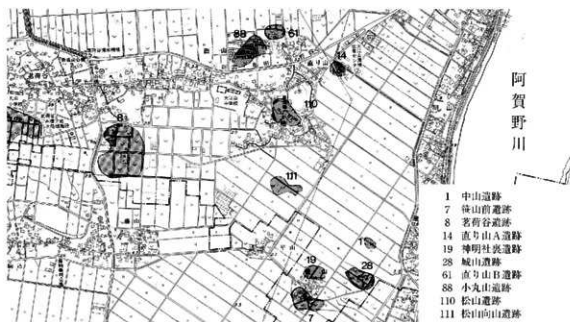


図12 遺跡周辺図（S=1/20,000）

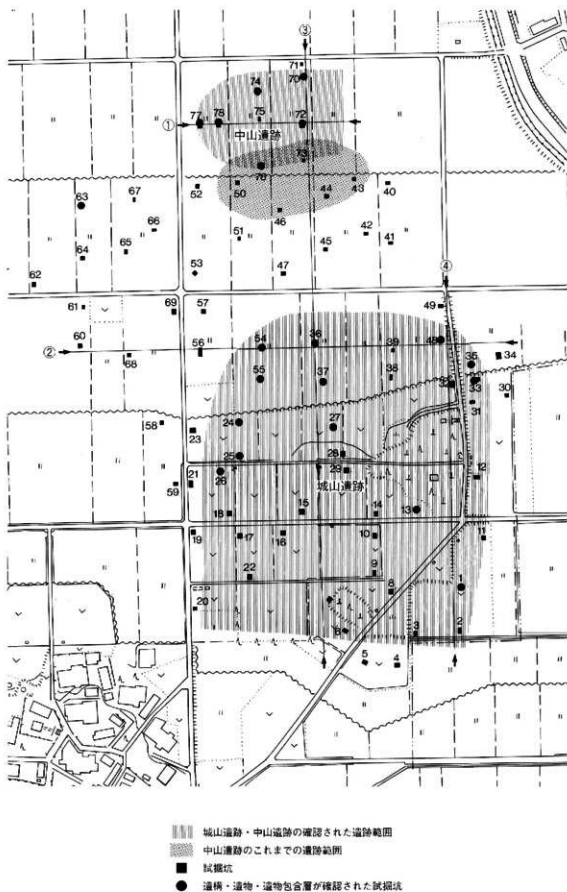


図13 試掘坑配置図 (S=1/2,000)

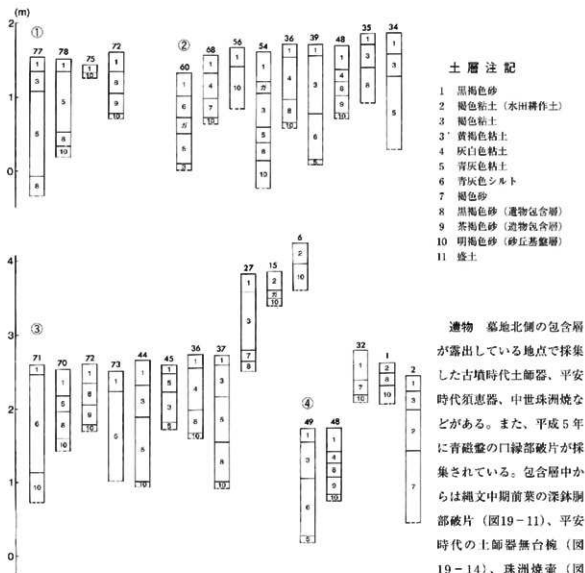


図14 中山・城山遺跡土層柱状図 (S=1/50)

が、少量の鍛冶滓が古墳時代の土師器とともに見つかっている。これらの遺物から途中断絶している期間をはさんで長期間にわたって利用されてきたと思われる。

城山遺跡には農道と農業用排水管の敷設が予定されているため、該当する部分は本格調査が来年度以降必要になる見込みである。

#### 中山遺跡 (図14 No.40~47、50~53、62~79)

従来の周知範囲より全体におよそ40m北側にあることがわかった。隣接する水田が予定地外のため調査をすることができなかったが、図示した範囲より東側へ広がっていると思われる。また、遺跡の中央部分は水田を造成した時に削平されていたが、そのほかの遺物包含層は比較的良好に残っていた。

**遺構** 72TPで1号埋設土器を発見した。黒色土層中から掘り込んでおり、明褐色砂層まで達している。土器の覆土に焼土が見られなかったこと、灰であった場合予想される住居の生活面が確認されなかったことから、埋設土器とした。遺構からは縄文時代中期後～末葉の深鉢が4個体以上出土し、うち3個体 (図19-1~3)の底が抜かれ、掘えられていた。太目の沈線と文線を区画し、いずれも大木10cmの古段階と思われる。1と2は入れ子状で、1は2の中に正位で入れられていた。2は口縁から全体の2/3ほどまで残存

し、正置されていた。底部を含む残りは2の中に敷きつめられて、中に入った1が固定されていた。3は逆さに据えられ、周囲に図19-4、5の破片が敷かれていた。土器埋設の可能性も考えたが、遺構覆土から焼土や炭化物が見られなかったため埋設土器とした。番号は当初土坑として考えていたため、そのままSKと注記した。

また、1号埋設土器遺構を調査する過程で、周辺を拡張し、サブトレンチを入れたところ、断面で竪穴式住居址の立ち上がりを確認した。1号埋設土器遺構と同様黒色土中から掘り込んでいるが、土器の上面の高さより床面の高さが15cmほど低いため、住居址が古い可能性が高い。完掘していないため、形状は不明である。

遺物 70-72TPで多く出土した。過去に古墳時代の土器器が出土しているが、今回は出土しなかった。縄文中期後葉の大木10式のものが多い。以下に概要を述べる。

1～18は1号埋設土器遺構で出土したものである。1は口径21.0cmと小型で、胎土が良好である。波状の区画が上下にのび、中を縄文で充填している。2は口径30.5cm。3は胴部中央よりやや上で横に波状沈線を通らせ、文様帯を分ける。上半はU字のモチーフを6単位描く。モチーフ内は磨消縄文。沈線から下はLRの原体で施文されている。口径31.5cm、器高46.0cm、底径10.7cm。4と5は接合しないが同一個体と思われる。SK1の埋設土器（図示番号2）の下部に敷いてあった破片と内部の底面の土器が接合したもので、復元口径は32.0cm、胴部径31.8cmである。逆U字の充填縄文によるモチーフを持つ。一部に火を受けた跡があるが、破片によって表面がかなり白色化したものとそうでないものの差があり、転用後の使用状況の差によるものと考えられる。6はよく調整されて薄く作られた小型品と思われる。7～13はいずれも大木10式の深鉢の胴上半部文様帯である。18は結節絡状体を原体に用いたもので、1点のみの出土である。

20は口縁が内縁し、文様を区画する沈線が細い。大木9式の浅鉢と思われる。19は大木8b式の口縁部装飾である。火を受けて赤化している。大木10式のものと同胎土が異なり、直径1mm以下のチャートや石英が多く含まれている。ほかに同時期の遺物がなく、この時期の特徴なのかわからない。20は沈線が細く、区画も小さいことから、大木9式の可能性がある。器種は浅鉢かもしれない。21～33は概ね大木10式の古段階

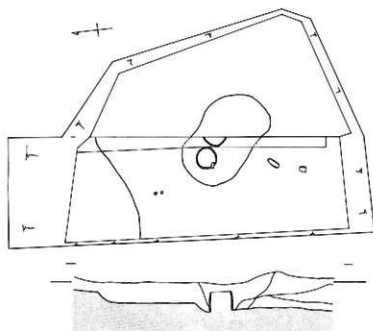
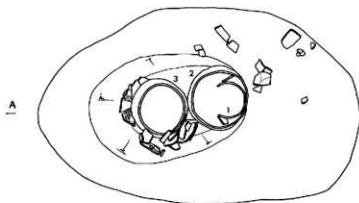


図15 中山遺跡72TP平面及び断面図（S-1/50）

と思われる。28～33は胴上半部文様帯の破片である。32は細い原体が使われ、やや薄手のため、小型品と思われる。器形はわからない。34と36は同一個体である。38は燃糸を軸に巻いたものを原体として用いている。42は表面を工具でなでて調整した粗製土器である。46は口径40.5cm。47と48は住居址の床面上で出土している。

中山遺跡では遺物包含層や遺構が良好に残っていた



が、遺構が発見されたのが3月10日、全体の調査を終えたのが3月半ば過ぎであり、報告をまとめるのに時間を要したため、遺跡の取り扱いは7年度に協議することになった。現状の事業計画では暗渠敷設が予定されている。

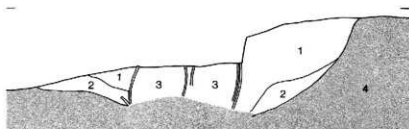


図16 中山道跡1号土坑平面及び断面図 (S=1/50)

#### 土層注記

- 1~3層 植物の枯れた根合  
1層 黒色土 粘性なし  
しまりあり  
2層 淡褐色砂  
3層 黒色土 粘性なし  
しまりあり

#### 直り山A遺跡

基本土層は1層水田耕作土、2・3層粘土、4層シルト層、5層砂丘基盤層である。1~5TPで砂層を地表面から約1~1.2m掘り下げたところで確認したが、中山・城山遺跡にあったような黒褐色砂(クロズナ)層は見られなかった。6TPでは腐植層が粘土層の下に堆積していた。5・7TPは遺跡推定範囲内に設置したが、遺物等は確認できなかった。調査地は厚い河川堆積物によって砂丘基盤層が覆われており、遺構・遺物・遺物包含層は観察されなかった。このことから、遺跡は事業予定地内まで広がっていないと考えられるが、1~4TPで砂丘基盤層がやや小高くなる事が確認されているため、現在認識されている遺跡の位置が、実際はずれていることも考えられる。今後遺跡範囲を確実に把握するために、分布調査を行なう必要がある。

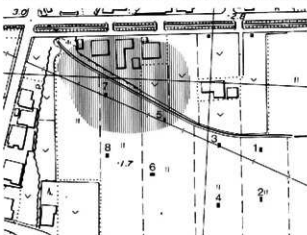


図17 直り山A遺跡試掘坑配置図 (S=1/2,000)

- 直り山A遺跡の遺跡範囲(推定)  
■ 試掘坑

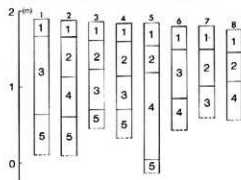


図18 土層柱状図 (S=1/50)

#### 土層注記

- 1 灰褐色粘質土  
2 褐色粘土  
3 青灰色粘土  
4 青灰色シルト  
5 明褐色砂

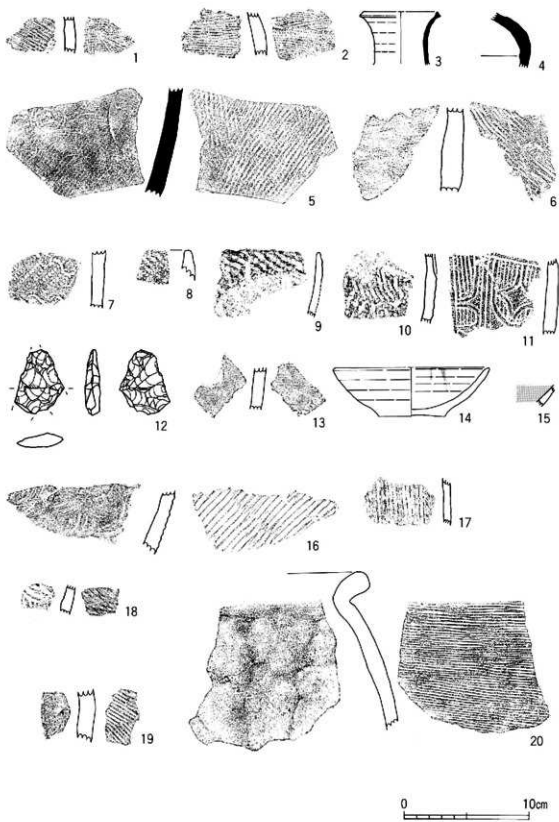


图19 城山遗址出土遗物 (S=1/3)

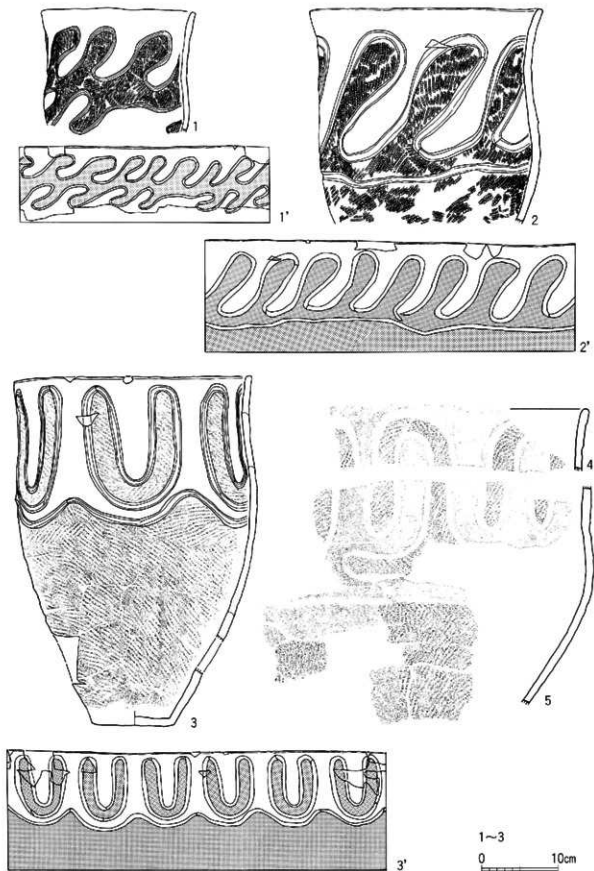


图20 中山遗址出土遗物(1) (S=1/5), 展开图 (S=1/10)

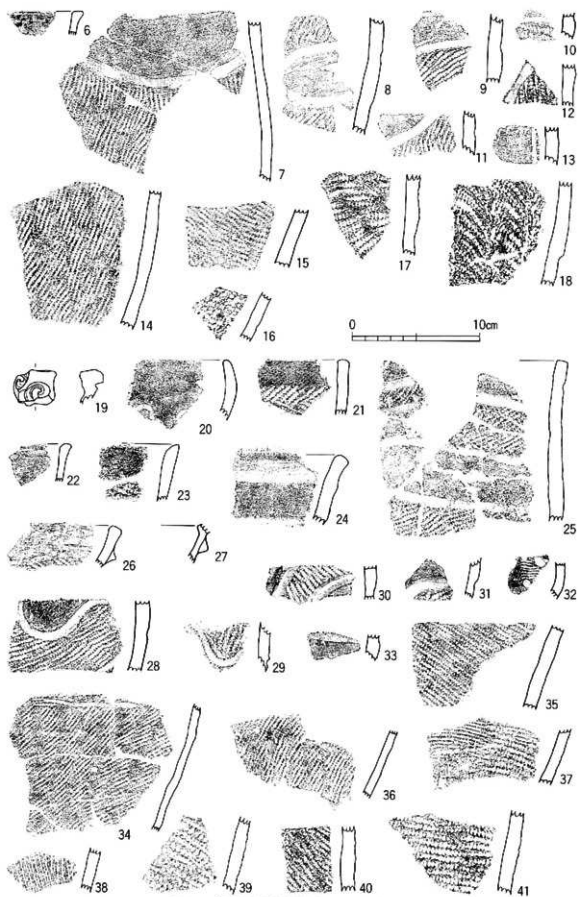


图21 中山遗址出土织物② (S=1/3)



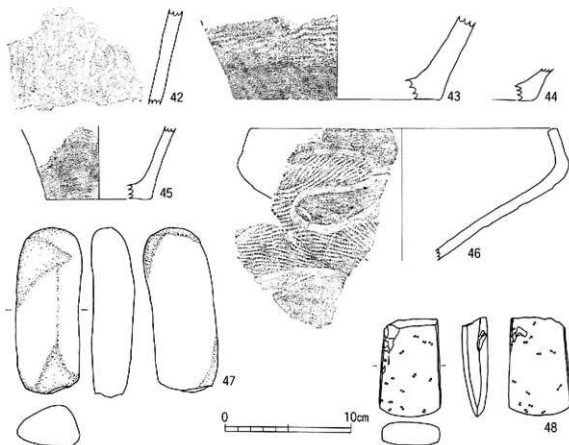


図22 中山溝跡出土遺物(3) (S = 1 / 3)

表3 城山遺跡出土遺物観察表

凡例

胎土に含まれる粒子のうち、白色：長石、灰色もしくは半透明：石英、黒もしくは金色：雲母である。

また、粒子は最大径のものを記した。土師器について、時代の記載がないものは平安時代のものである。

番号	出土位置	器種	器種	残存	胎土	調整	備考
1	採集	土師器	甕	胴部	径2mm以下白・半透明・灰色粒子多量含	外：ハケメ 内：ハケメ	古墳時代
2	採集	土師器	甕	胴部	径4mm以下白・半透明・灰色粒子少量含	外：ハケメ 内：ハケメ	古墳時代
3	採集	須恵器	長頸壺	口縁部	微細な白色粒子少量含	ロクロ成形	
4	採集	須恵器	甕	胴部	径2mm以下白・黒・灰色粒子多量含	ロクロ成形	
5	採集	須恵器	甕	胴部	径1mm以下白・灰色粒子多量含	外：平行タタキ目 内：同心状あて具	
6	採集	須恵器	甕	胴部	微細な白・灰色粒子少量含	外：平行タタキ目 内：横方向ナデ	
7	34TP	須恵器	深鉢	胴部	径4mm以下白・黒・半透明色粒子少量含	外：縄文 内：ナデ	
8	48TP	須恵器	深鉢	口縁部	径1mm以下白・半透明色粒子少量含	外：縄文 内：ナデ	
9	26TP	須恵器	深鉢	口縁部	径2mm以下白・黒・半透明色粒子少量含	外：縄文 内：ナデ	9・10と同一體
10	26TP	須恵器	深鉢	胴部	径2mm以下白・黒・半透明色粒子少量含	外：縄文 内：ナデ	
11	55TP	須恵器	深鉢	胴部	径2mm以下白・灰・茶色粒子多量含	外：半截竹管、縄文 内：ナデ	
12	26TP	石器	石錘	先端・基部欠損	石材：頁岩	両面加工	
13	9 TP	土師器	長頸壺	胴部	径3mm以下白・黒・灰色粒子多量含	外：ハケメ 内：ナデ	
14	62TP	土師器	無台碗	口縁～底部	径1mm以下白・黒・茶色粒子多量含	ロクロ成形 無調整 底部凹板余切	
15		美土器	碗	胴部	微細な白色粒子少量含	ロクロ成形	
16	24TP	土師器	甕	胴部	径3mm以下白・半透明・茶色粒子少量含	外：平行タタキ目 内：同心状あて具	
17	48TP	土師器	長頸壺	胴部	径2mm以下白・灰・半透明色粒子少量含	外：平行タタキ目 内：ナデ	
18	4 TP	土師器	長頸壺	胴部	径1mm以下白・灰色粒子少量含	外：平行タタキ目 内：同心状あて具	
19	4 TP	須恵器	甕	胴部	径1mm以下白・半透明・黒色粒子少量含	外：平行タタキ目 内：無文あて具	
20	33TP	須恵器	甕	口縁部	径2mm以下白・灰色粒子少量含	外：平行タタキ目 内：黒文あて具	

表4 中山遺跡出土遺物観察表

番号	出土位置	種類	器種	残存	胎土	調整	備考
1	72P SK	甕文土器	深鉢	口完	黒色 径5mm以下、灰、半透明粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
2	72P SK	甕文土器	深鉢	口完	径1mm以下白、黒、茶色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	内面被熱か
3	72P SK	甕文土器	深鉢	口完	径2mm以下白、黒、金色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
4	72P SK	甕文土器	深鉢	口	径2mm以下白、黒、金色粒子含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
5	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、金色粒子含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
6	72P SK	甕文土器	深鉢	口	径1mm以下白、黒、金色粒子含	内外面ミガキ	
7	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、茶、金色粒子含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
8	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒、茶、金色粒子含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	内面被熱のための淡褐色化
9	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒、茶、金色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
10	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、茶色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
11	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、茶色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
12	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒、茶色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	内面被熱によるハジケ
13	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒、半透明色粒子多量含	外: 沈殿・磨消 内: ナデ	
14	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒、茶、半透明色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	内面スス付着
15	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、茶、半透明、茶色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	内面スス付着
16	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、半透明色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
17	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰、半透明、茶色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
18	72P SK	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰、半透明、茶色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	外面スス付着
19	70TP	甕文土器	深鉢	口縁部	径2mm以下白、灰、半透明色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	被熱による赤化
20	72TP	甕文土器	不明	口縁部	径2mm以下白、灰、半透明、茶色粒子多量含	外: 沈殿 内: ナデ	
21	72TP	甕文土器	深鉢	口縁部	径2mm以下白、黒、灰色粒子多量含	外: 縄文・磨消 内面: ナデ	
22	70TP	甕文土器	深鉢	口縁部	径1mm以下白、灰、金色粒子少量含	外: ナデ 内: ナデ	
23	72TP	甕文土器	深鉢	口縁部	径2mm以下白、黒、金色粒子多量含	外: 縄文・ナデ 内面: ナデ	
24	70TP	甕文土器	深鉢	口縁部	径3mm以下白、黒、灰、金色粒子多量含	外: ナデ・磨消 内: ナデ	
25	70TP	甕文土器	深鉢	口縁部	径1mm以下白、灰、黒、金色粒子少量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	外面スス付着
26	70TP	甕文土器	深鉢	口縁部	径2mm以下白、黒、茶、茶色粒子多量含	外: 縄文・磨消 内面: ナデ	
27	72TP	甕文土器	浅鉢	口縁部	径2mm以下白、黒、金色粒子多量含	外: ミガキ 内面: ナデ	
28	70TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、半透明、金色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内面: ナデ	
29	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒、半透明、金色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内面: ナデ	
30	70TP	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
31	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、灰、金色粒子少量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
32	72TP	甕文土器	不明	胴部	径2mm以下白、黒、金色粒子多量含	外: 縄文 (磨消)・沈殿 内: ナデ	
33	70TP	甕文土器	深鉢	胴部	径1mm以下白、黒、半透明、金色粒子多量含	外: 沈殿・磨消 内: ナデ	
34	70TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、茶、半透明、金色粒子多量含	外: 縄文 内: 雑なナデ	36と同一個体
35	70TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、茶、半透明色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
36	70TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、茶、半透明、金色粒子多量含	外: 縄文 内: 雑なナデ	
37	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰、半透明、金色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
38	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
39	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰、金色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
40	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、黒、半透明色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
41	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰、半透明、茶色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	
42	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径3mm以下白、灰、半透明、黒色粒子多量含	外: 縦方向ナデ 内: ナデ	
43	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰、黒色粒子多量含	外: 縄文 内: ナデ	内面スス付着
44	72TP	甕文土器	深鉢	胴部	径2mm以下白、灰、半透明色粒子多量含		
45	70TP	甕文土器	深鉢	底部	径2mm以下白、黒、灰、金色粒子多量含	外: ミガキ 内: ナデ	
46	70TP	甕文土器	浅鉢	口縁部	径2mm以下白、灰、茶色粒子多量含	外: 縄文・沈殿・磨消 内: ナデ	
47	72TP	石器	敲石	ほぼ完	石材: 凝灰岩		
48	72TP	石器	基部欠損		石材: 凝灰岩		

図版1 築上山遺跡・石動遺跡・城山遺跡



築上山遺跡 (1, 2) 3TP 土層堆積状況



7TP 土層堆積状況



石動遺跡 (3~6) 調査区遠景



1TP 全景



4TP 遺物出土状況



①1TP 土層堆積状況

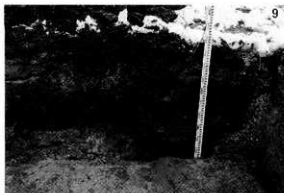


城山遺跡 (7~9) 調査区遠景



32TP 土層堆積状況

図版 2 城山遺跡・中山遺跡



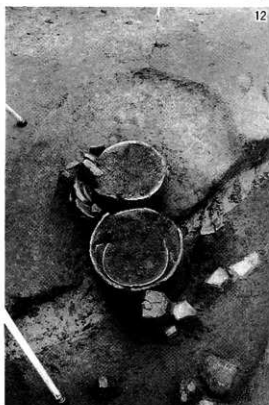
27TP 土層堆積状況



中山遺跡(10~14) 調査区遠景



72TP 埋設土器出土状況 (1)



72TP 埋設土器出土状況 (2)

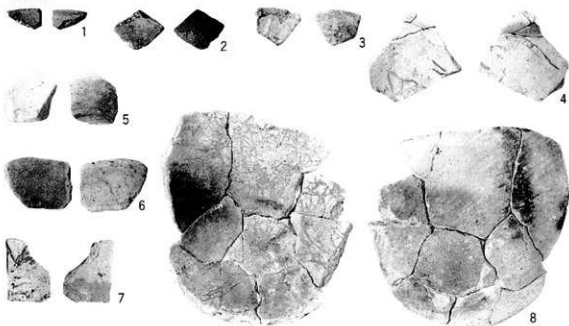


72TP 石器出土状況

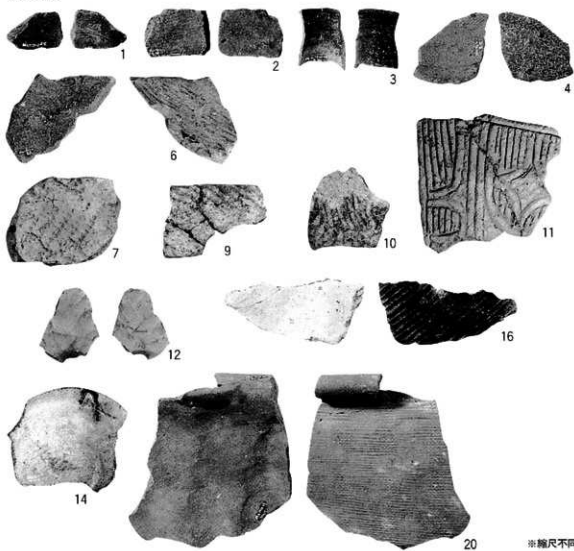


土器 1、2 の覆土を取り除いた出土状況

石動遺跡

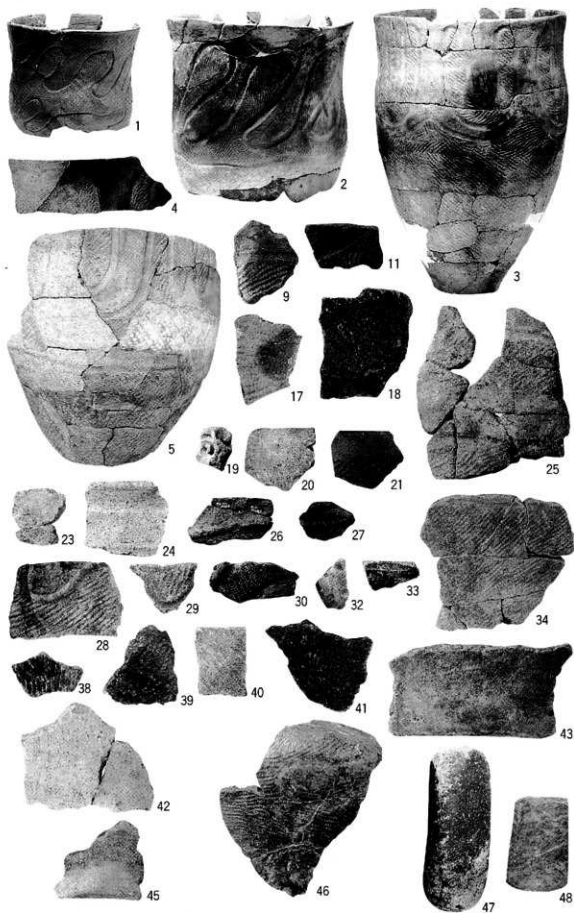


城山遺跡



※縮尺不同

図版4 中山遺跡の遺物



# 報告書抄録

ふりがな	へいせい6ねんどまいぞうふんかぎいほつちちようきほうこくしょ							
書名	平成6年度埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	本間 柱吉 鎌山 えりか							
編集機関	新潟市教育委員会 生涯学習課							
所在地	〒951 新潟県新潟市学校町通1番町602番地1 TEL 025-228-1000代							
発行年月日	1995年 3月 31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つかげやまいせき 薬上山遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 にいさきあざつかげやま 新崎字薬上山	15201	25	37° 55' 37"	139° 10' 13"	19940822	44㎡	国道建設
いするざいせき 石動遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 ほんじよあざいすら 本所字折通	15201	85	37° 55' 54"	139° 08' 13"	19940829～ 19940831	100㎡	県営圃場整備
たけおにいせき 竹尾西遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 たけお 竹尾	15201	83	37° 54' 44"	139° 14' 00"	19940913	100㎡	県営圃場整備
じょうやまいせき 城山遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 くらかあざじょうやま 蔵岡字城山	15201	28	37° 52' 45"	139° 09' 25"	19941213～ 19950228	376㎡	県営圃場整備
なかやまいせき 中山遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 くらかあざかみつつみ 蔵岡字上堤	15201	1	37° 53' 57"	139° 09' 20"	19950301～ 19950310	256㎡	県営圃場整備
なおりやまえいせき 直り山A遺跡	にいがたけんにいがたし 新潟県新潟市 なおりやまあざおほほば 直り山字大横場	15201	14	37° 53' 11"	139° 08' 50"	19950313～ 19950314	48㎡	県営圃場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
薬上山遺跡	散布地	平安時代						
石動遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代 中世			古式土師器・須恵器・ 土師器・珠洲焼			
竹尾西遺跡	散布地	平安時代						
城山遺跡	包含地	縄文時代 古墳時代			縄文土器・石器・古式 土師器・土師器・須恵器			
中山遺跡	包含地	縄文時代	埋設土器遺構1基 竪穴式住居1基		縄文土器・石器			
直り山A遺跡	散布地	平安時代						

## 平成6年度埋蔵文化財発掘調査報告書

1995(平成7)年3月31日発行

編集・刊行 新潟市教育委員会  
〒951 新潟市学校町通1番町602番地1

印刷 拓太陽印刷所  
〒950 新潟市和合町2丁目4番18号  
TEL. (025) 382-7651